



令和2年度

やまみなみ校長室だより No. 44

令和3年1月8日

岸和田市立山直南小学校

校長 松村 慎治

ことばの力

1月5日(火)、例年より少し早い3学期始業式を迎えました。寒い日が続いているので、体調不良等で休んでいる子どもたちもいましたが、体育館に集まった子どもたちは、元気に、それでいて静かに集合できており、その姿を見てとてもうれしくなりました。

私は始業式の冒頭、「みんなが、また学校に戻ってきてくれてとてもうれしいです」と伝えました。始業式を無事に迎えられたのは、この冬休みの間、手洗いやマスクの着用など、自分自身で健康に気を付けてきたからです。そのことをまずほめました。そして、子どもたちに語ったことは、タイトルにも書きました「ことばの力」についてです。

校舎内の階段を上がるところに掲示している『ひとつのことば』という詩を読みました(右掲載)。子どもたちは静かに聞いていました。「けんかになったり、なかなかおりしたりする、たったひとつの言葉とはどんな言葉でしょうか。想像して聞くように」と言いました。そして、次のように語りかけていきました。

友だちや家族、周りの人から聞いた言葉で、元気になったり励まされたりすることがあります。反対に聞いた言葉によって、心がしずんだり体の調子が悪くなったりすることもあります。言葉にはよくも悪くも力(パワー)があります。昔から言葉を『言霊(ことだま)』ともいいます。言葉には魂が宿る、不思議な力があると言わされてきました。

普段から「ありがとう」「大丈夫?」「いっしょにがんばろうね」「うれしいよ」などとよく言う人は、周りに温かい雰囲気が生まれ、人が集まってくる。そんなよい言葉を使っている自分自身もどんどんいい気分になり、自信もわいてくる。反対に、「うつとうしい」「うざい」「消えろ」などの言葉を普段使っていると、その言葉を聞いた人はいやな気分になり、雰囲気が悪くなって、気がつけば周りに誰もいないことになります。これらの言葉を最初に聞くのは周りの人ではなく、自分自身です。普段から自分の使う言葉のシャワーを自分自身が浴びているのです。だから、言葉を聞かせる相手だけでなく、言葉を話す自分自身にも力を与える、影響を及ぼすことになります。

言葉には「心」があります。言葉を大切にするということは、相手や自分自身を大切にすることだと思います。言葉には魂、心が入るからこそ力がある。言葉一つでよくも悪くなる。山直南小学校の子どもたちは、言葉を大切にする人になってもらいたい。みんなならきっとできる。言葉を大切に使ってください。

心のある言葉を大切にし、その言葉を使ってコミュニケーションをとるならば、よい人間関係を築き、お互いより健康に生活することもできる。そして、プラス思考の言葉を発することで、夢や希望に前向きに進むこともできるのではないでしょうか。子どもたちに、よりよい人とのつながりを築き、健やかな成長を遂げてほしい、そんな思いで始業式の話をいたしました。

ひとつのことば
北原泉

ひとつのことばでけんかして
ひとつのことばでなかなおり
ひとつのことばで頭が下がり
ひとつのことばで心が痛む
ひとつのことばで楽しく笑い
ひとつのことばで泣かされる
ひとつのことばはそれなのに
ひとつのことばはきれいで
ひとつの心を持つて
きれいなことはきれいな心
やさしいことははやさしい心
ひとつのことばを大切に
ひとつのことばを美しく